

2012年春季研究発表会 プログラム

大会初日 6/16(土)						
セッションNo	講演No	開始時間	終了時間	講演者	タイトル	発表要旨
開会挨拶など		13:30	13:35	開会挨拶など		
セッション1 座長 山田先生	講演1	13:35	14:00	○長嶋洋一(静岡文化芸術大学大学院デザイン研究科)	身体に加わる加速度とサウンドの音像移動に関する心理学実験報告(4/4)	映像酔いに関して筆者が過去に行った研究で、映像酔いの指標として被験者の末端二酸化炭素濃度が低減されるか、を調べた。本研究では、自動車内で身体に加わる加速度と、聴取するサウンドの音像移動(時間的に身体に加わる加速度よりやや先行させる)との組み合わせに対する好き嫌いの被験者の判断を、被験者の主体的判断によるジョイスティック操作と無意識情報であるCO2濃度とで分析した。本報告はそのpart4として、特に心理学実験結果のデータ分析の部分について紹介する。
	講演2	14:00	14:25	◎濱村真理子(九州大学芸術工学府), 岸上直樹(九州大学芸術工学部), 岩宮眞一郎(九州大学芸術工学研究院)	音楽再生音の聴取レベルにおける男女差とその要因に関する検討	音楽再生音の聴取レベルにおいて男女差が生じることを明らかにした。その要因について検討するため、音楽およびノイズ再生音の大きさを評価する実験を行った結果、どちらも女性の方が男性よりも大きいと評価していた。
	講演3	14:25	14:50	○谷口高士(大阪学院大学情報学部)	聴覚的臨場感に関連する音の基本印象語と複合的印象語の階層関係について	主に聴覚的臨場感や空間的印象に関連する高次で複合的な印象語27語と、音の性質や定位、移動などを表現する基本的な印象語120語について、一般女性16名の協力を得て関連性評価実験をおこない、意味次元と階層関係を検討した。
休憩1		14:50	15:05	休憩15分		
セッション2 座長 上田先生	講演4	15:05	15:30	◎池上真平(青山学院大学大学院教育人間科学研究科), 重野純(青山学院大学教育人間科学部)	拍の分割位置とスウィングリズムの関係	スウィングとは拍を長音と短音に分割して演奏する表現技法である。本研究は、拍を分割する位置がスウィングリズムの認知に及ぼす影響について検討した。その結果、奇数拍と偶数拍の両方で拍を分割する場合と、偶数拍のみで拍を分割する場合とで、スウィングリズムの認知のされ方が異なることが明らかとなった。
	講演5	15:30	15:55	○亀川徹, 丸井淳史(東京芸術大学音楽学部), 阿部健彦(テレビ朝日制作技術センター), 濱住啓之(NHK放送技術研究所), 河内博司(NHKアイテックマルチメディア映像事業部)	演奏時における音声モニターの遅延時間の検知限とその影響について	演奏者が演奏時に聴く音声モニターの遅延時間の検知限について、演奏者単独の場合、オーケストラ演奏の場合、バンド演奏の場合の3種類について調査をおこなった。結果から5msで約8割の演奏者が遅延を知覚出来る事が示された。
	講演6	15:55	16:20	◎井口宗亮(北海道教育大学大学院教育学研究科), 吉野巖(北海道教育大学教育学部札幌校)	単旋律における調性的期待(2)-主要三和音に対する和音プライミングの比較-	和音プライミングの実験パラダイムに基づき、プライム刺激として2小節の単旋律を提示し、それに続くターゲット和音(I・IV・V)への反応時間を測定したところ、I、V、IVの順で反応時間が速くなることが明らかになった。
	講演7	16:20	16:45	○星野悦子(上野学園大学音楽学部)	音楽聴取から喚起されるイメージについて(2)~異なる音色と様式の影響~	音楽の聴取によって喚起される心的イメージの性質や構造が、演奏楽器の音色の違いや曲の様式の違いによって影響されるのかどうかを、自由記述の分析により調べた。
休憩2		16:45	16:55	休憩10分		
総会・表彰式	会長・理事	16:55	17:45			
懇親会		18:00	20:00	*懇親会場: 旬魚旬菜 夢花 大橋名店街店		

*講演者左欄の◎は研究選奨受賞対象者を示す。

2012年春季研究発表会 プログラム

大会2日目 6/17(日)						
セッションNo	講演No	開始時間	終了時間	講演者	タイトル	発表要旨
セッション3 座長 亀川先生	講演8	9:00	9:25	◎小野健太郎(京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット), 中村昭範(国立長寿医療研究センター), Burkhard Maess, Angela D. Friederici(マックスプランク認知神経科学研究所)	指揮者およびメトロノームに同期したタッピングにおける脳内メカニズムと音楽経験の影響	指揮者とメトロノームの映像を用いたタッピング課題とfMRIにより、視覚情報に同期した運動を行う際に音楽経験がもたらす影響を検討した。その結果、指揮者に同期した場合にのみ音楽経験の影響が見られ、上前頭回の活動に違いが見られた。
	講演9	9:25	9:50	◎小野祐平, 大野昌剛(龍谷大学大学院理工学研究科), 三浦雅展(龍谷大学理工学部)	ソロ演奏音を対象とした感情表現の強度操作法	マリンバ演奏音の表情付けを音響信号処理によって変化させることで、演奏に表現された感情の強調(感情強調)および抑制(無感情化)を提案している。評価の結果、感情の強調および抑制が被験者に伝えられていることが確認されている。
	講演10	9:50	10:15	◎小幡哲史(大阪大学大学院医学系研究科), 伊東太郎(武庫川女子大学大学院健康・スポーツ科学研究科), 木下博(大阪大学大学院医学系研究科)	バイオリンの安定固定に関わる顎あて力について	バイオリン演奏において楽器の安定保持は重要な技術の一つである。本研究は熟練奏者がどのように楽器固定を行なっているのかについて調べることを目的とし、力センサーを装備した顎あてを製作し、力計測を行なった。音の跳躍、和音などの演奏技法や、強い情動表現時に観察された強い力発揮、またその奏者間での差異などについて報告する。
休憩3		10:15	10:30	休憩15分		
セッション4 座長 谷口先生	講演11	10:30	10:55	◎森数馬(広島大学大学院総合科学研究科・日本学術振興会特別研究員), 岩永誠(広島大学大学院総合科学研究科)	音楽聴取がもたらす鳥肌感および涙感に伴う情動反応と自律神経反応	音楽聴取によってしばしば鳥肌感や涙感が喚起される。本研究で行った実験は、鳥肌感が急峻な快情動の上昇と交感神経系の活性化を伴うのに対し、涙感が緩やかな快情動の上昇と副交感神経系の活性化を伴うことを示した。
	講演12	10:55	11:20	◎藤山沙紀(九州大学大学院芸術工学府), 江間琴音(九州大学芸術工学部), 岩宮眞一郎(九州大学大学院芸術工学研究院)	黒澤明の映像作品における音楽と映像を対比させた手法の効果	本研究は、黒澤明監督が用いた「音と画の対位法」の効果、音と映像の印象評価を行い検討したものである。「対位法」が使われた部分では、音楽と映像の印象は反対であり、調和感は低かった。しかし、作品全体の良さの評価は高かった。
	講演13	11:20	11:45	◎沖将吾, 米田涼, 山田真司(金沢工業大学大学院工学研究科)	音楽の経時的な印象変化に関する研究	音楽のジャンルによる聴取印象の変化の仕方の違いを調査した。その結果ゲーム音楽は、クラシックやポピュラー音楽に比べ覚醒度の変化が小さいことが分かった。また音楽の最終的な印象が音楽の一番印象的な部分で決定されることが示唆された。
	講演14	11:45	12:10	◎金森慎弥, 米田涼, 山田真司(金沢工業大学大学院工学研究科)	ゲーム音楽とゲーム映像の調和感に関する研究	ゲーム音楽とゲーム映像の調和感の関係をSD法を用いて調べた。その結果、音楽を映像に付与した場合、音楽が全体の印象を強く規定しており、映像に付与された音楽を同様の印象の音楽と交替させても調和感があまり減じないことが明らかになった。

*講演者左欄の◎は研究選奨受賞対象者を示す。